

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

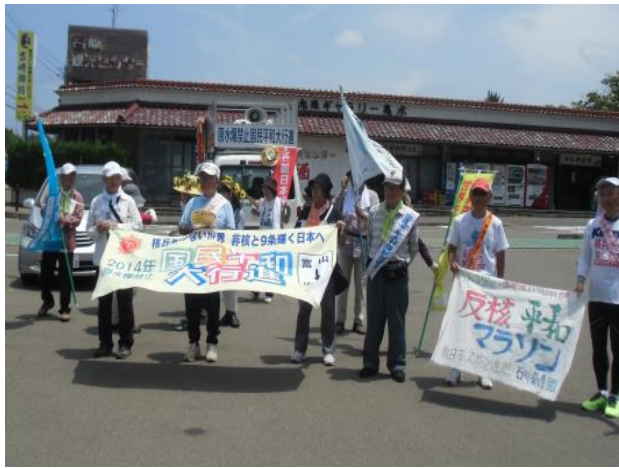
二〇一四年原水爆禁止国民平和大行進

県内通し行進者の目が捉えたこと

スタートラインとエントリー

奥護

毎日、折鶴三〇数羽。という方がいた。八八歳女性のSさん。「なぜ」と聞いて、それから親しくなった。―父は沖繩戦で命を落とした。無念の想いと『安らかに眠れ、二度と暗黒の世が訪れないように』と折り、折り続けている、年間一万余千羽。沖繩と



6月24日、福井県境の吉崎御坊に到着した国民平和大行進と反核平和マラソンの横断幕 (左から3人目が奥護さん)

事務局
〒920-0848
金沢市京町28-8
石川民医連労働組合気付
Tel 076-251-0014
郵便振替口座
00760-0-15689

非核5項目

- ① 人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則(つくらず、もたず、もちこませず)を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。



原水爆禁止国民平和大行進の最終日、福井県への引き継ぎ式であわら市議会議長の挨拶を紹介

介します。「私の父は八月六日、広島で爆心地から一七kmのところまで被爆しました。自分が被爆したにもかかわらず、死の灰がふりかかる中で軍から派遣されて亡くなった方々の収容作業をしたそうです。戦後も甲状腺癌などいろんな癌に苛まれました。皆さんどうか平和を守ってください」と、切々と訴えられました。

六月八日、日曜日朝一〇時半頃の輪島市朝市通りは最も賑う時間帯。その中で衝撃の第一波が。「今年も来てくれたね」。混雑の中を、お店のおかみさんたちが書き込んだ署名用紙を次々と掲げ、「とりききてー」と叫ぶのである(あつという間に一一八筆が集約)。
加えて、買い物などしないのに、反対に千円札も一緒に差し出され「原子爆弾や戦争はいや。人殺しと金喰い虫の塊だ」、「がんばってや」と。これでギアが一つ上がった。朝市通りはとにかく熱い。
夕方の町並みを八九歳の女性と行進を供にした。「私らの子供・青春時代は戦争一色だった。洋服に例えるなら一番大事なボタンは命と平和。掛け違えたら全てが歪んでしまう。カラスが鳴かない日があ

▲平和行進は全ての都道府県をつなぎ、全ての市町村での行進をめざしています。五六年の歴史と実績があり、市民と自治体が平和を推進するための対話をする良い機会であることを実感しました。▲非核石川の会が今年五月に実施した自治体アンケートの回答には、二〇一〇年までの核兵器廃絶をめざし、市民との連携を重視している平和首長会議への「加盟に向け検討中」が新たに五か所ありました。白山市議会六月定例会では「来年度を迎える戦後七〇周年を機に加盟したい」との市長答弁もありました。▲国会答弁の際によく用いられる言葉「検討する」とは、検討するだけで実際ににはなにもしないこと(宮本政於『お役所の掟』講談社)にならないよう、未加盟自治体には「前向きな検討」を切望します。(か)

つても、安倍さんが映らない日はない。こわいね」。

「数十年間、願ひ込めて行進続けてきた。ところがどうだ。二月前に事故で足の骨を折った。また、血流か何かの病がもとで、杖なしでは歩けない。だが両者は言う。『こんなことで記録を断つことはできない』と闘志を燃やしている仲間がいる」と集会で報告した。

直後、千円札をすうと差出し寄ってくる人がいた。「俺も足が痛いんだ」と。お名前を聞いて元私鉄労働者と分り、ここでも感激。

歩き、とおす

一五日間、歩き通すと、誰よりも長い時間、多くの場面に逢える。新婦人の歌姫みなさんの爽やかなソプラノ。病院・診療所・介護施設職員総出の「折り鶴」の大合唱。沿道からの差し入れ。自治体の対応、歓迎・激励集会の場では取り組んで頂いた量的成果と併せてメッセージ内容に重みを感じた。草の根の私達の不断の運動と、国連・世界が呼びかける声とが、世界を動かすトライアングルのように響き合う。そんなふうには私を感じたのだが。

青年・若者の輝き、躍動感に満ちた活躍を記さずして、この稿を終える訳にはいかない。

命の重み・尊さに背を向け、人権としての社会保障をことごとくぶち壊す悪政の暴走車に立ち向かう医療・介護職場の青年と語り合えた。「医療崩壊」、「介護難民化」「老人漂流社会」を許すな。社会に役立ついいしごとがしたい。この願いが叶う、働きたいがある職場づくり青年の持つ内発的エネルギーが総發揮される。職場・地域にとって力強い。たかひの先頭に立つ若者が多く参加され、まかされ

た任務を力・元氣一杯やりきったのだ。

二五年振りの再会、歩きながら考える、と

福井への三日前。二五年前に労働組合運動で知り合った公務員労働者との奇遇を得た。物知りで勉強家は今もかわりない。

彼曰く「歩きながら考えてほしい。長い目で世界を見たとき、人類は原子力の活用をめぐって二つの不幸を抱えたことになる。一九三〇年代、人間が核エネルギーを発見した。一つ目の不幸は、第二次世界大戦。最初の実用化が核兵器。広島・長崎の悲劇だ。二つ目の不幸は、経済的エネルギーとして原子炉が開発され潜水艦に乗せられた。いずれも戦争目的。軍用に開発したものをすぐに、民間用に転用した。それが原子力発電というもの。いろいろあるだろうけど、ひとつ注目してほしいのは五月二一日の福井地裁判決。人格権が最優先。我が国の法制下ではこれを超える価値を他に見いだすことはできない。大きな道標だ。心しびれ涙止まらなかった。この路は二つの不幸をのりこえて行くに違いない」と。六月一四日、富山行進団が峠を越えてきたとき「人間をかえせ」の峠三吉さんが思い浮かばれ、それから無事福井にたどりつけたことに感謝したい。多くのみなさんの下支えあつてのことだと思ふ。

第五回核兵器廃絶国際行動デー・記念講演

「第五福竜丸は航海中」

講師：市田真理（第五福竜丸展示館学芸員）

東京ディズニーランドに行く二駅手前が私どもの展示館です。一昨年に通算来館者数が五百万人を



ポケットからこぼれでる美味しいハイフ
ボンヤリこども時代、ノホン学生時代～
悩み受けとめたり着いた世界は、
食べることこそ生きること、
平和な気がいつつきエッセイ集！

市田真理さんの著書

越えました。私はこの船が捨てられていた六七年に生まれました。江東区の夢の島に廃船処分になって捨てられていたのです。この船は木造船なのですが、甲板より上は鉄製に改造され、船名も「はやぶさ丸」と変わっていたのです。労働組合の分会ニュースで「廃船処分になって捨てられている」と知らされて以来、このゴミの中から何とかこの船を守ろうじやないかというところで、保存運動が始まったのです。六〇年前の話をさせて頂きます。「ブラボー」というのは米国がビキニ環礁で行った核実験のことです。勿論、全くブラボーではありません。広島型原爆の一千倍です。

第五福竜丸の乗組員たちは実はキノコ雲を見ていません。見えたのは色と光だけだったので。船員が作業を終え船室で休んでいた時に突然、西の空が明るくなったのです。「西から太陽が上がったのか？」「隕石か？」と薄気味悪いと感じたそうです。「夕焼けのような光が拡がり、光が止まり、黄色っぽくなり、そして闇が戻った」と大石又七さんは語りました。そして光を見た八分後、「ドドド」という地鳴りが響いてきたそうです。これで約一六〇km

離れていたことが分かります。漁労長の「縄上げろ」指示で作業しながら、急ぎ日本に針路をとりました。大石さんが見たのは、船に覆いかぶさってくる大きな雲の塊でした。風上にいるのに何故か船に向かつて押し寄せてきたそうです。そして白い灰のようなものが降りました（放射性降下物）。体に当たるとチクチクと痛いもので、気がつくとも甲板に足跡がつくくらい降り積ったそうです。その日のうちに少しの吐き気や頭痛が起きました。しかし弱音を吐けない漁師魂で、お互いに言えない状態だったそうです。数日経つと白い雨に当たったところが火傷の跡のようになり、髪の毛がまとめて抜け落ちたのです。急性放射能症でした。

福竜丸は七ノットしか出ません。焼津まで二週間かかったのです。つまりその間、放射性降下物とともにあったのです。しかしまだ戦後九年で当時、国民は何も知りませんでした。ただ医師は「ピカを見たのでは？」と語ったそうです。これが三月一六日の世紀のスクープ。邦人漁夫、原爆実験に遭遇”につながるのです。今の単位でいうと二千〜三千mm Sv、つまり半致死量に当たるものを浴びたのです。

当時の石川の地元紙を調べると、「昨日金沢に被爆魚二尾入荷」「金沢大学に持ち込み…」「汚染魚は廃棄魚雷のような姿で…」「野田山に埋めた」とあります。築地ではセリの最中に連絡が入り、セリ止めとなり、全国では八五〇隻を超える船が被害に会って全てが廃棄処分されました。

「ブラボー」は三万四千以上まで原爆雲をせり上げ、死の灰の粒の比較的大きなものは海面まで落ちてきました。小さな粒子はジェット気流に乗って地

球を回り、雨となりました。“こんなことは冗談ではない”という思いが原水爆禁止運動の原点です。

展示館には乗り込み員の方たちへのお見舞いの手紙が約三千通残されています。久保山愛吉さんの容態悪化とともに全国から送られてきたものです。なおも核大国は核実験を繰り返して、日本政府は米国の要請を受け、一二月末をもって全国一人の港で行われていた検査を打ち切りました。その理由は「放射能は直ちに人体に影響が出るものではない」でした。翌年から「汚染魚ゼロ」。全くのデタラメです。

核実験場になったマーシャルのことを述べます。写真には深い青色になっている海が見えます。しかし何故ここが青くなっているかといえば、「ブラボー」によって抉（えぐ）られているからなのです。五回目の実験「ヤンキー」（ふざけた名前！）では日本に直接、死の灰が降りました。同じ一六〇kmの位置にロンゲラップ環礁がありますが、その住民たちは何も知らされず人体実験させられたのです。実験後五〇日経って米軍に収容され、三年後に島に戻った住民は異様な風景を見、健康障害に苦しみました。そしてロンゲラップの女たちは異常な自然や出産の実態を国際世論に訴えました。「グレープベイベー」「ジェリーフィッシュベイベー」（クラゲのような赤ン坊）という言葉ほど悲しいことはありません。そして放射能汚染レベルのデータを米軍が八年に突然出した時、島の人たちは「子どもたちの未来のために」最終的に島を捨てる苦渋の決断をしたのです。

二百万ドルのお金が日本政府に支払われ、政治決着させられました。これは損害賠償ではありません。

「公的な責任は伴わない」という一言が入っているのです。お金は業界団体などに配分されただけです。福竜丸の船員には一人当たり二百万円の見舞金が支払われました。そうすると一斉に退院させられて「被爆者はいない」。“この事件は終わった”となったのです。そして故郷に帰ったら「あんたらうまいことやったね」と言われ、それで大石さんも二度と海の男に戻れなくなったのです。

大石さんは東日本大震災の二週間前に「私たちは危険と隣り合わせにいます。気づくなら今です」と予言のように仰り、「自分が怒り続けなければ、黙って死んでいった人たちに申し訳ない」と語りました。そして「あの戦争も原発事故もビギン事件も、誰かが責任を取るでしょうね」と大江健三郎さんに語りかけたら、「誰も責任を取らないでしょうね。それがこの国です」との答えでした。私は講演などで、失礼ながら大石さんご本人の前で「この人には時間がないのです」と申し上げています。かけがえのない語り部だからです。そして私はその「語り継ぎ部」でありたいと考えているのです。ぜひ皆さんもそうあっていただきたいです。

この船はゴミの中から救い出され、今は建物の中に保存され、二度と船出することはありません。でも第五福竜丸は『核のない未来に向かって航海中』なのです。どうぞ皆さんもこの航海に一緒にしましょう！（大きな拍手）

「文責は編集部」

◎本稿は六月一五日、石川県女性センターで開催された核戦争を防止する石川医師の会主催の「第五回核兵器廃絶国際行動デー」の記念講演要旨です。

三上智恵監督の講演要旨

「ヤマトンチュに訴える 沖縄の人々の怒りと悲しみは私たちの現実です」



映画「標的の村」監督、今年3月まで琉球朝日放送キヤスターを務める

「この国は」にも来てしまったのか

ドキュメンタリー映画「標的の村」は昨年八月に劇場上映され、全国各地で二万四千人の方に観ていただきました。その後、自主上映会を開くところも今でも毎週一〇カ所くらいあり、二九〇カ所になっています。

この映画は、米軍基地をかかえる沖縄の現状を知っていたためにつくったものですが、「この国は」ここまで来てしまったのか」を訴える内容になっています。

安倍内閣が国の形を変えようとしていることに危機感を持った人たちが、「標的の村」上映会を開き、地域の意見をまとめて集まろうと企画されています。

当事者意識をもってつくった映画

オスプレイが沖縄に配備されるのを何としても止めたかったのですが、一昨年、昨年と一二機づつ

配備され、現在は二四機になっています。さらに自衛隊の導入やアメリカの陸軍が来るようになると五〇機くらいが狭い島を飛び交うこととなります。私は報道に携わる者ですが、自分の問題として、当事者意識をもってこの映画をつくりました。

放送局の人間がなぜドキュメンタリー映画をつくったのか。本来は地方の放送局でも全国ネットで放映できる仕組みがありますが、基地問題などみなさんが必死に声をあげて座り込みをしてもいつの頃からかテレビでは放映されなくなっています。沖縄県内ではトップニュースになっても全国ネットでは放映されない現実があるため、映画をつくり、全国各地で自主上映を進めていくしかなかったわけです。

オスプレイ配備は食い止めた

私たちがオスプレイの沖縄配備を食い止めたのは、オスプレイがよく墜落事故を起こすからではありません。一番忘れることができないのは一九九五年の沖縄米兵少女暴行事件です。あの時大人たちは基地をなくすため、基地負担を軽減するため起ち上がりました。八万六千人の県民集会を開き、当時の太田知事は代理署名手続きを拒否するなど、沖縄の怒りが大きく盛り上がりました。しかし、この事件を背景に普天間基地の移設が決まったという「筋書き」ができてしまったことです。私たちは県内移設という条件がついていることを甘くみていました。「沖縄の怒りが普天間基地の返還につながった」というように伝えてしまったわけです。

一九九五年の事件後、さらに悪くなる状況は避けたいと一生懸命報道してきましたが、オスプレイが

配備され、辺野古に軍港を併設する新基地が建てられてしまったら私たちがやってきたことは何の意味ももたないこととなります。だからどうしてもオスプレイは止めたかったのです。

高江にはベトナム戦争の時に「ベトナム村」がつけられ、沖縄県民がベトナム人役をやらされていたことも含めて、全国の人が知ってくれば高江でのヘリパッド建設に反対してくれると信じてドキュメンタリー番組をつくりました。二〇一二年九月と一二月、深夜ですがテレビ放映され、大きな反響があったため、映画「標的の村」をつくりました。

私のなかでは高江の主人公は小学校六年生の海月ちゃんです。頑張って報道してきたにも拘らず一七年経って国と沖縄の不幸な関係を私たち大人がつくってしまった。映画の中で「お父さん、お母さんが疲れてしまったら、私が代りにやってあげたい」と、海月ちゃんたちが背負おうとしていることを自分も一緒に背負っていかうと思っています。

最高裁が「スラップ裁判」を是認

映画の中で高江の住民たちが座り込みしたら通行妨害したと国から訴えられた「スラップ裁判」ができてきます。オスプレイが来たら生活できなくなるから座り込みをしているのに、国や企業が相手を脅かすために訴える「スラップ裁判」は、訴訟社会が進んでいるアメリカでは禁止されていますが、日本では禁止されていません。六月一六日、最高裁は高江の住民の上告を棄却したため、国による「スラップ裁判」が認められてしまいました。日本には権力の濫用を防ぐため三権分立がありますが、行政が起こした「スラップ裁判」を最高裁が是認することに

より司法の独立性が問われています。

今回の最高裁の判断について、沖縄のメディアはトップで報道しましたが、全国ネットではほとんど報道されていません。オスプレイは止められなかったけれど、このような「スラップ裁判」は二度と起こされないような国にしたいと、これからも上映活動を続けていきます。

「標的の村」続編を準備中

高江の現状ですが、六つのヘリパッド建設計画のうち二つが完成しており、七月からはさらに建設工事が進められようとしています。また辺野古の新基地建設のための海底のボーリング調査が七月中頃から開始されようとしており、現地では大変緊迫した情勢になっています。私は今も現地にて「標的の村」続編をつくるため準備しているところです。

私の作品は住民側に偏っているといわれます。国のやり方に反対する人はたくさんできますが、賛成する人はでてこないとのクレームをいただくこともあります。反対の声を上げていないから容認ではありません。高江のように声を上げたら訴えられるもどで、辺野古ではキャンプシユワブがつくられて五〇年経過しており、米軍基地とつながっている人がたくさんいるなかで、声を上げていない人を容認した人のように報道してきたのは、「報道の公正中立」にしばられたマスコミの無作為が問題です。基地に反対する人ははつきりしているが、基地に賛成する人は一人もいないと思います。これが沖縄に一九年間住んできた私の結論です。

「誰が基地を建てたいのか」「誰がオスプレイを飛ばしたいのか」「誰が辺野古の海を本当に埋め立

てたいのか」、映画を観て一緒に考えていただきましたと思います。

◎本稿は六月二十八日、小松市民センターで開かれた映画「標的の村」上映会における三上智恵さんの講演要旨です。

特別寄稿

安倍内閣の

「エネルギー基本計画」を斬る(中)

児玉一八

安倍政権が今年四月十二日に閣議決定した「エネルギー基本計画」は、原子力発電を「準国産エネルギー」として、安定供給と効率性を有し、温室効果ガスの排出もなく、重要なベースロード電源などと位置づけました。自民・公明両党は二〇一二年総選挙で、「原子力に依存しなくてもよい経済・社会」（自民）、「可能な限り速やかに原発ゼロ」（公明）と公約していました。「エネルギー基本計画」は、こうした国民への公約を投げすてて、福島原発事故などなかったかのように原発を使い続けることを宣言したものです。

原子力は「エネルギー基本計画」が言うように、本当に「安定供給性」と「効率性」があつて、「低廉」で地球温暖化防止に貢献する「低炭素」なのでしょう。一つひとつ検討してみましょう。

はじめに「安定供給性」について。福島第一原発事故は、原子力発電は放射能という巨大な危険性を内蔵していることを、あらためて国民に示しました。さらに、いったん重大な事故がおれば、国内の原発すべてが停止してしまう事態に陥ることも明らかにになりました。福島の事故もそうでしたが、審査

の段階で想定もしていない原因で重大事故がおこれば、すべての原発を止めて審査のやり直しをしなければならぬからです。このことは、原発が未熟な技術であることを示しています。こんな原発が「安定供給性」を持っているとは言えません。

次は「効率性」です。火力や原子力などのタービンを回す発電方式のエネルギー効率は、「熱機関の最大効率は、作業物質にはよらず、二つの温度のみで決定される」というカルノーの定理により、高温と低温の熱源の温度差が大きいほど高くなります。水蒸気の温度が高ければ高いほどエネルギー効率が高くなるので、最新鋭火力では水蒸気温度を六〇〇℃程度まで上げるなどして、エネルギー効率を約六〇%まで高めています。しかし、原子力発電では、炉心の高線量の放射線に耐えられる材料が見つからないなどの理由で、三〇〇℃前後から水蒸気温度はまったく上がっていません。そのため、エネルギー効率は三〇%くらいのみで、発生した熱の三分の一しか電気に変えることができず、残りの三分の一は熱のまま海に放出しています。このようなものは「効率性」があるとは言えません。

「低廉」はどうでしょうか。立命館大学の大島堅一教授は、有価証券報告書の実績から、原発の発電コストを計算しました。この計算には、燃料費や保守費用などの発電に直接要するコストのほかに、原発に不可欠な技術開発や立地対策のコストも含められています。その結果、火力や水力に比べて原子力が「安い」と宣伝されていますが、国が立地対策や開発費用を肩代わりし、これから先数万年は管理

が必要な廃棄物処理・処分の費用が全く入っていない数字を言っているだけです。

「低炭素」もデタラメです。発電所から排出される二酸化炭素は、発電時だけをとれば石炭や石油を燃やす火力発電に比べて原子力は少ないものの、鉱山からウランを掘り出したり、精錬や濃縮、転換などでウラン燃料をつくる過程、あるいは輸送などで大量の二酸化炭素が排出されます。原発で発生した使用済み核燃料を運搬、再処理する過程でも、大量の電力や化石燃料を使っています。原子力発電をシステム全体で見れば、決して「低炭素」などではありません。

「エネルギー基本計画」はこうした真つ赤なウソの前提をならべて、「重要なベースロード電源」としています。前提がデタラメなわけですから、こんな計画がまったく成り立たないことは明らかです。「エネルギー基本計画」は抜本的に見直して、原子力から完全に撤退し、自然エネルギーの開発と利用を急速にすすめる方向に転換することが求められています。(核・エネルギー情報センター理事)

日本科学者会議

第三五回原子力発電問題全国シンポジウム

テーマ 福島原発事故から三年半―事故の現状と

再稼働の動き、活断層問題

日程 八月三〇日(土)～三一日(日)

会場 金沢市駅西健康ホール

問合せ 日本科学者会議石川支部 直江俊一

電話 〇九〇―八九六九―六六九三

非核石川の会 リレーエッセイ

客観的に視ることを大切に

中西 優

七月一日、安倍政権が集団的自衛権行使容認の閣議決定を強行しました。問題点や今後の動きについては他にも多くの解説が出されていますので、こちらに譲るとし、個人的に感じているのが「安倍政権は自分たちを客観視する力が無い」ということです。私は大学時代に国際法を主に勉強していました。(会の代表世話人・五十嵐正博先生にはゼミなどで大変にお世話になりました)それも、日本の政治課題を見る時に「国際的に見ればこの問題はどうなのか」という客観的視点で考えることを大事にしています。この視点で見れば閣議決定は二つの大問題を抱えていると考えます。

第一に、「対話と信頼で国の関係を構築する国際社会の流れに逆行したこと」です。決定では、「我が国は重大な安全保障上の課題に直面している」とありつつ、平和な世界づくりにいかにも軍事力が必要であるかのような記述をしています。しかしこれは一八〇度の逆行であり、憲法九条をもとに国際社会で生きてきた日本が突然集団的自衛権行使を認め、他国とともに紛争の場に出ていくとなれば、国際社会に大きな衝撃を与え、平和の関係づくりに水を差すことは明白です。

第二に、憲法解釈という行政の決定が国際法より優先されるかのような表現を用いたことです。「武力の行使にあたり・・・国際法上の根拠と憲法解釈は区別して理解する必要があります」としていますが、

これは他国からすればとんでもない話です。国と国が信頼し合って合意した取り決めを一国の行政決定で覆そうというのは、日本はウソツキ国家だ」と非難され、国際社会で相手にしてもらえないことになるのではという危機感を私は抱いています。

「自分のしていることを冷静に外から見つめなおす」ことができないことが今の安倍政権の暴走、展望のなさにつながっているのではないのでしょうか。自分たちだけで虚勢を張っている政治家は今の日本には必要ありません。

六ヶ所村ラプソディ

岩原茂明

六ヶ所村ラプソディというDVDがあります。二〇〇六年に、つまり二〇一一年三月一日のはるか以前に発売されたものです。

あとがきを引用すると「原発に反対する人々と容認・賛成する人々がいる」青森県六ヶ所村を取材して「賛成・反対」の村人が出て、それぞれの思いを語っています。二〇一四年の今日見ても、まったくそんな色はありません。仕事がない、という本音とか。私は、二〇〇六年ころには、勤務先が短期的成果主義に代わってしまい、平和や原発を口にするだけで追い出される雰囲気のあるときに、親しい方から教えてもらって予告編を見ました。

「こんなひどい時代に頑張っているひとたちがいる」とずいぶん励まされたものです。それからずっと心に留めていたのですが、先日、所属する平和サークルから還暦祝い(実は六五歳で加入なので、入ってじきに)に六ヶ所村ラプソディを頂戴して、何度も何度も繰り返し見ている日々です。



戦争をさせない石川の会が発足

安倍政権の集団的自衛権行使容認の閣議決定に抗議し、日本を再び戦争する国に変えようとする策動を阻止するため、県内の学者、有識者、宗教者ら二人が呼びかけて七月四日、「戦争をさせない石川の会」が発足した。呼びかけ人には非核石川の会の井上英夫、五十嵐正博両代表世話人はじめ八人の世話人や会員が参加している。

同会では、「一片の閣議決定で、ただちに集団的自衛権の行使が可能になるわけではありません。具体化、立法化を許さないたたかいはこれからです」と、賛同人を千人集めることをめざしている。「世論を平然と無視した安倍政権に撤回を求め、まず呼びかけに呼应し、賛同署名で意思表示を。響き合う行動をしよう。同会事務局は金沢合同法律事務所内。」

詩人会議かなざわ「独標」より

YOUメール

喜多村 貢

アベノミクスの特効薬で
ガンの痛みが和らいだと
へらへら浮かれている奴らめ
笑っていられるのも今のうちだ
もうすぐ カンフルも効かない痛みが
全身を突き抜けるだろう

その時 僕らは目醒めているか
抵抗する者の側に与しているか
いやいや、すでに死に瀕しているか
神のみぞ知るのだが

ボウフラのように生きている事だけはよそう
握る石を忘れ
投げた相手を見失った人間ほど
惨めなものはないと言うではないか
あしたは ガン撲滅の集会
君が来るのを待っている

《非核平和・行事予定》

- ・七月二七日(日)一〇時〜正午：反核平和おりづる市民のつどい二〇一四・金沢市卯辰山平和の子ら像前・主催同実行委員会
- ・七月二九日(火)一八時半：二〇一四年原水爆禁止世界大会参加者結団式・石川民医連会館三階会議室
- ・八月二日(土)〜三日(日)：日本母親大会⑤神奈川
- ・八月三日(日)一二時：憲法改悪反対街頭宣伝Mza前
- ・八月四日(月)〜六日(水)：二〇一四年原水爆禁止世界大会・広島市
- ・八月五日(火)：「集団的自衛権行使」問題について・講師岩淵正明弁護士・近江町プラザ四階・どなたでも参加可能・主催金沢弁護士会
- ・八月五日(火)〜一八日(月)「原爆と人間展」・県庁・主催・反核平和おりづる市民のつどい実行委員会
- ・八月六日(水)：広島の日
- ・八月六日(水)一二時半：特定秘密保護法撤廃宣伝Mza前・一九時：抗議デモ中央公園
- ・八月九日(土)：長崎の日

- ・八月九日(土)一二時：核廃絶署名行動日・Mza前
- ・八月一五日(金)：終戦の日
- ・八月一七日(日)〜一八日(月)：日朝協会石川県支部「夏期学習会」・キゴ山学習館
- ・八月二二日(金)一九時：わらび座ミュージカル「ブツダ」公演・金沢市文化ホール・主催金沢市・金沢芸術創造財団・わらび座を観る会推薦
- ・八月二三日(土)一四時〜一六時：石川憲法学校・開校記念講演・金沢労働会館三階ホール
- ・八月二九日(金)一八時半：二〇一四年原水爆禁止世界大会参加者報告会・石川民医連会館三階会議室
- ・八月三一日(日)一〇時半〜一七時：いしかわピース9フェスティバル・野々市市交遊舎
- ・九月一三日(土)：「集団的自衛権行使」問題について・講師阪田雅裕元法制局長官・金沢歌劇座二階大集会所・どなたでも参加可能・主催金沢弁護士会
- *毎週金曜日一八時半〜一九時半：どいね原発アピール行動・JR金沢駅東口

◎編集部注：祝日は休日(国民の休日)と表記します。

語らねばならぬ、描き残さねばならぬ、と
あの日の惨状を記憶絵として再現した
故・清水正明氏「原爆・被爆の絵画展」
ご案内

日時 八月六日(水)〜一七日(日)
午前九時〜午後五時
会場 輪島市文化会館 二階展示室
主催 輪島市・輪島市教育委員会

「海外で戦争する国」へ踏み出す

集団的自衛権行使容認の閣議決定に抗議！

安倍政権は七月一日、集団的自衛権の行使容認の解釈改憲を閣議決定しました。これは「戦争の放棄・戦力不保持。交戦権否認」をうたい「海外で戦争をしない」ことを平和原則にしてきた憲法を破壊する歴史的暴挙です。

七月二日、非核の政府を求める会は、「国民多数の反対世論を無視して、閣議決定を強行した安倍内閣に対し厳しく抗議するとともに、違憲無効の閣議決定を直ちに撤回するよう強く求めるものである」との抗議文を発表、安倍首相と自民、公明両党に送りました。

原水爆禁止世界大会に

神田順一事務局長を代表派遣します

今年八月広島で開催される世界大会と来年四月ニューヨークで開催される国連NPT再検討会議へ要請の代表派遣の趣旨をおくみとりいただき、二つの代表派遣募金(目標三〇万円)へ熱いご支援をお願い申し上げます。

広島で開催される世界大会には神田順一事務局長を代表派遣することで準備を進めています。

本紙前号で標記の代表派遣募金をお願いしましたところ、七月二〇日現在二二人の方々から七万一千円が寄せられました。寄せられましたご厚志に心よりお礼を申し上げます。

非核の政府を求める石川の会常任世話人会

故清水正明医師の広島被爆絵画シリーズ⑩



輪島市教育委員会所蔵

⑩ 父母いずこ

三日三晩もえ続けた火災も消え人々の心もようやく平静に戻った頃肉親や知人を探して、臨時救護所を訪ねて歩く人が多かったここにも父母を探し求める姉弟の涙をさそう姿が見られる隣の人も死んだ、向いの家も全滅したそして自分達の父母もとうとう帰って来なかった

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班 田伏久子



《編集室より》

◎紛れて陰になった感があるが、沖縄返還密約文書の開示を最高裁が認めなかったという重大報道がある。役人による「秘密」の私物化と司法がその歯止めにならない現実を見れば、特定秘密保護法の行く末が危うい。いつか必ず歴史の法廷に立つ覚悟なしに国の針路に関わってはならない。(ま)